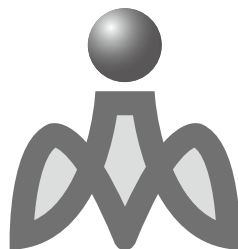


山 梨 県

商工会地区

中小企業景況調査報告書

〔令和4年7月～9月実績〕
〔令和4年10月～12月予測〕



未来に敏感、人が中心

山梨県商工会連合会

目 次

I 調 査 要 領	1
II 景 況	
1. 産業全体の業況概観	2
2. 製造業の動向	
(1) 景 況 概 観	3
(2) 主な項目で見る業況	3
3. 建設業の動向	
(1) 景 況 概 観	6
(2) 主な項目で見る業況	6
4. 小売業の動向	
(1) 景 況 概 観	9
(2) 主な項目で見る業況	9
5. サービス業の動向	
(1) 景 況 概 観	12
(2) 主な項目で見る業況	12

【I】 調査要領

1. 調査対象

(1) 対象地区 19商工会 (2) 対象企業数 165企業 (3) 回答企業数 165企業

2. 調査対象期間

第2四半期 令和4年7月～9月期 「調査時点：令和4年9月1日」

3. 調査方法

県内の調査対象企業を19商工会の経営指導員等が訪問面接調査

4. 調査対象企業（モニター企業）の商工会別、業種内訳

商工会名	製造業	建設業	小売業	サービス業	計
都留市	3	2	3	4	12
山梨市	1	2	2	3	8
大月市	2	1	3	2	8
韮崎市	2	2	1	2	7
南アルプス市	3	2	4	6	15
北杜市	4	2	5	4	15
甲斐市	4	3	5	2	14
笛吹市	3	2	4	6	15
上野原市	2	1	2	2	7
甲州市	3	1	2	3	9
中央市	2	1	2	1	6
市川三郷町	2	1	1	2	6
身延町	1	1	2	2	6
南部町	1	0	1	1	3
富士川町	1	1	1	2	5
昭和町	1	1	3	3	8
西桂町	0	0	1	1	2
南都留中部	1	1	2	2	6
河口湖	1	1	6	5	13
計	37	25	50	53	165

5. その他

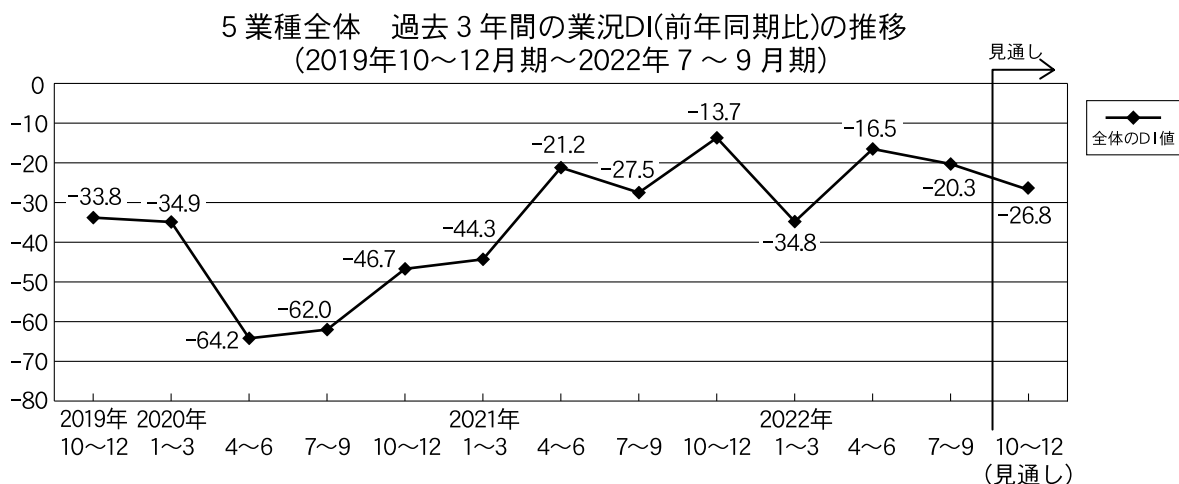
本報告書のD Iとは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について前年同期と比較して、増加（上昇、好転、長期化等）とする企業割合と、逆に減少（低下、悪化、短期化等）とする企業割合の差を示すものである。

【Ⅱ】 景 況

1. 産業全体の業況概観

本県における5業種全体の業況判断D I、及び、産業別の業況判断D Iについてみる。

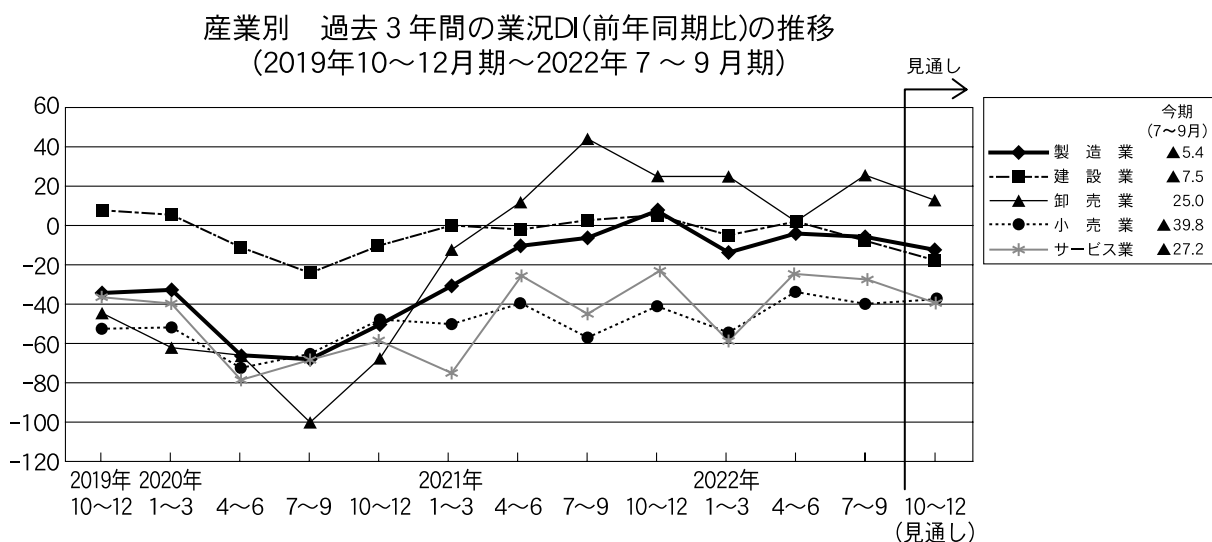
まず、前年同期比でみた過去3年間の5業種全体の業況判断D Iである。今期の業況判断D Iは、▲20.3と前期比で3.8ポイント悪化している。来期についても▲26.8とさらに悪化の見通しである。



次に、前年同期比でみた過去3年間の産業別の業況判断D Iである。

卸売業を除き全産業の業況判断は前期より悪化している。製造業が▲5.4で前期比▲1.4ポイント、建設業が▲7.5で前期比▲10.1ポイント、卸売業が25.0で前期比+25.0ポイント、小売業が▲39.8で▲7.4ポイント、サービス業が▲27.2で▲3.1ポイントあった。

来期は、小売業が若干の改善見通し、他の製造業、建設業、卸売業、サービス業はさらに悪化の見通しとなっている。



【注記】 上記、産業全体の業況概観については、商工会調査対象165企業に甲府・富士吉田地域等からの117企業を含めた282サンプルを使用。卸売業については、中小企業基盤整備機構調査によるデータのみを使用。次ページからの産業別景況D Iについては、商工会地区企業のサンプル分析に基づくものである。

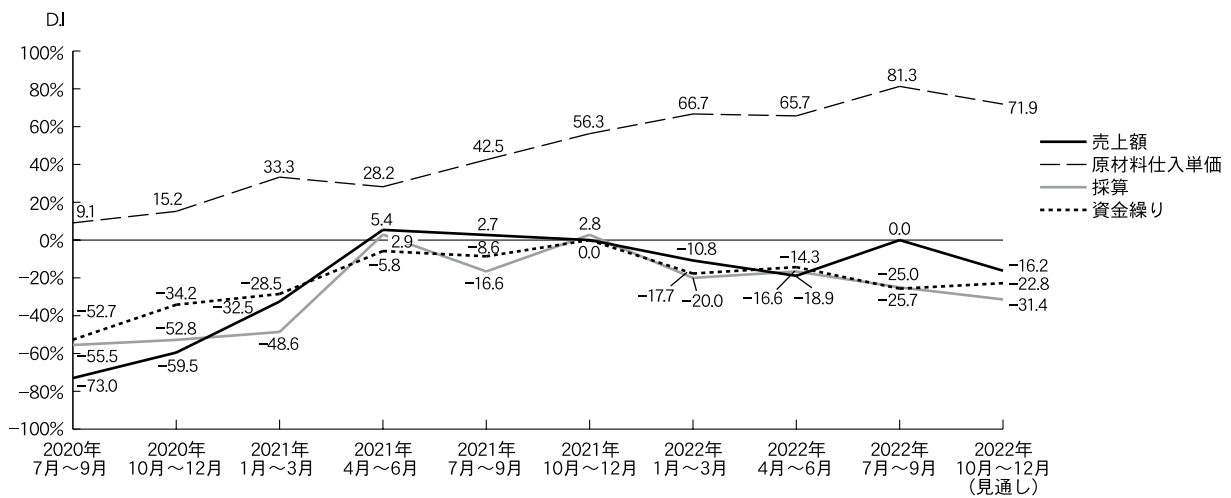
2. 製造業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期0.0と前期比で18.9ポイント改善したが、来期はまた▲16.2へと悪化の見通しとなっている。原材料仕入単価D Iは、今期81.3と前期比で15.6ポイント上昇（悪化）したが、来期は71.9へと下降（改善）の見通し。採算D Iは、今期▲25.0と前期比で8.4ポイント悪化し、来期は▲31.4へさらに悪化の見通し。資金繰りD Iも、今期▲25.7と前期比で11.4ポイント悪化したが、来期は▲22.8に若干ながら改善の見通しである。

今期は売上額D Iのみが改善し、他のD Iは悪化であった。来期は売上額D Iと採算D Iが悪化、原材料仕入単価D Iと採算D Iが改善の見通しである。

山梨県 製造業 主要景況項目の推移－前年同期比－



(2) 主な項目でみる業況

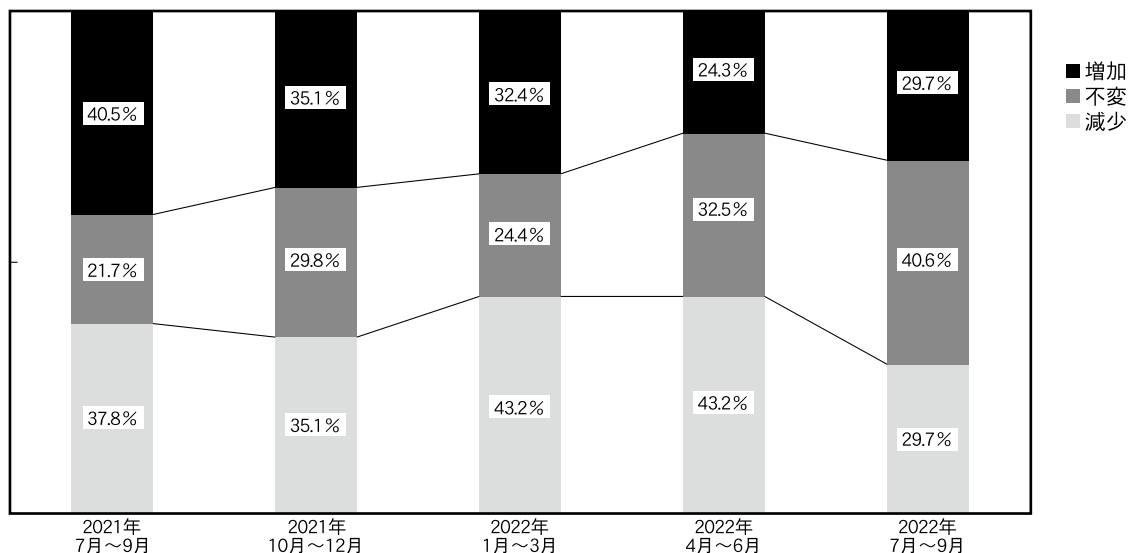
① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数37社））

「増加」と答えた企業の割合は、29.7%（11社）と増加（前期比+2社）している。

「不変」は40.6%（15社）と増加（前期比+3社）、

「減少」は29.7%（11社）と減少（前期比▲5社）している。

山梨県 製造業 売上額の状況－前年同期比－



② 採算（採算D Iの内容（回答企業数36社））

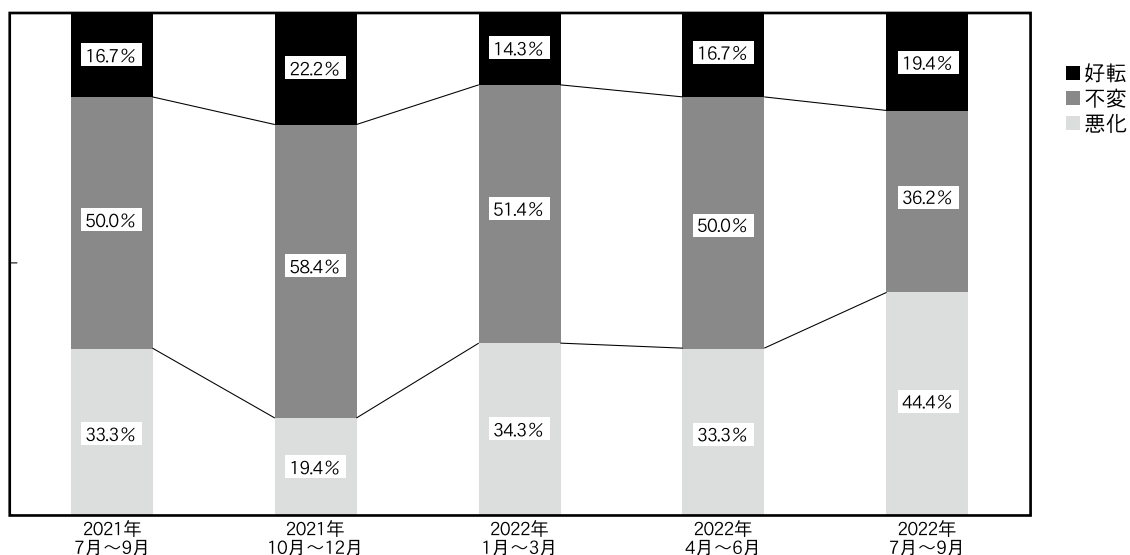
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、19.4%（7社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は36.2%（13社）と減少（前期比▲5社）、

「悪化」は44.4%（16社）と減少（前期比+6社）している。

山梨県 製造業 採算の状況－前年同期比－

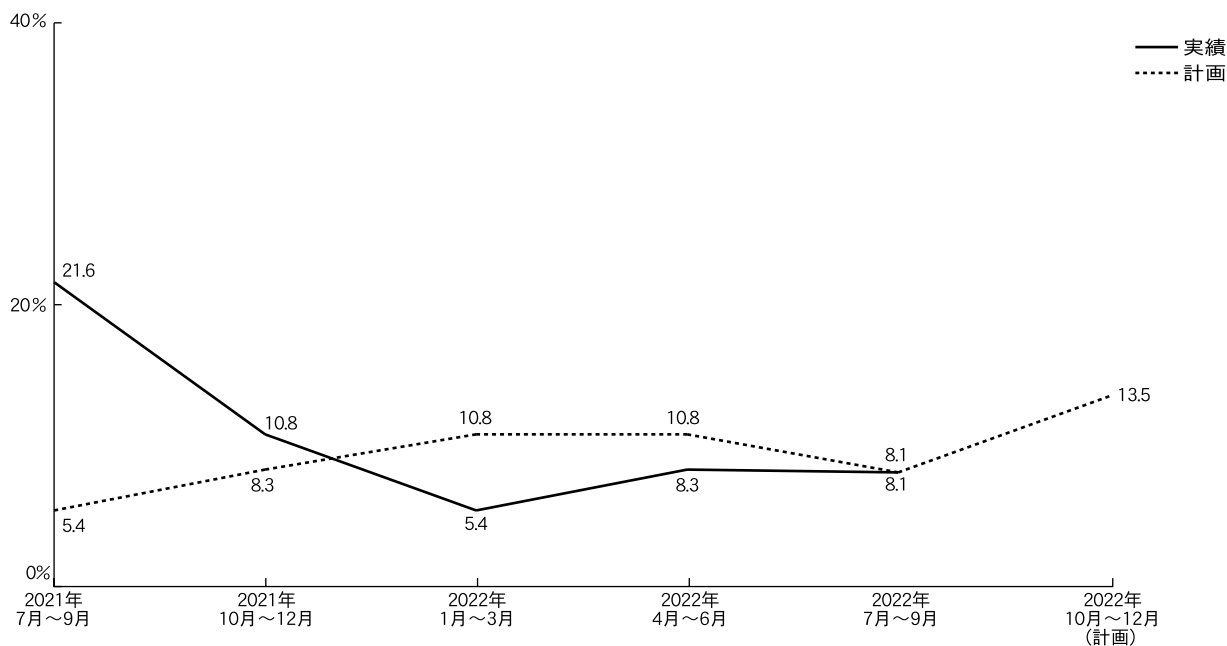


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数37社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は8.1%（3社）であった。その設備投資の内容は、「生産設備」が2件、「その他」が1件であった。

来期の計画については、13.5%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は「生産設備」が2件、「付帯施設」が1件である。

山梨県 製造業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数37社）

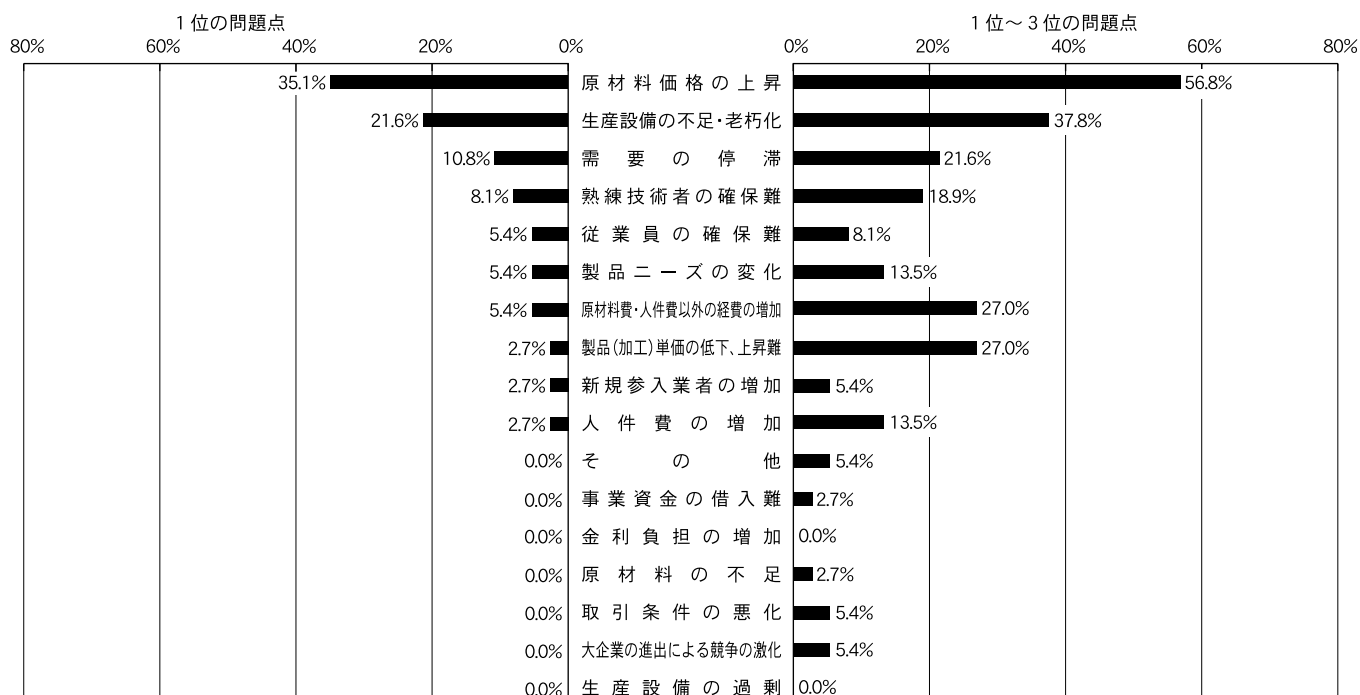
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の35.1%（13社）であり、2番目は「生産設備の不足・老朽化」の21.6%（8社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「原材料価格の上昇」の56.8%（21社）であり、2番目に多かったのは「生産設備の不足・老朽化」の37.8%（14社）であった。

山梨県 製造業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
食料品製造業	4	10.8
飲料・飼料・たばこ製造業	1	2.7
印刷・同関連業	3	8.1
化学工業	1	2.7
プラスチック製品製造業	4	10.8
金属製品製造業	3	8.1
一般機械器具製造業	13	35.2
電気機械器具製造業	3	8.1
精密機械器具製造業	1	2.7
その他製造業	4	10.8
合計	37	100.0

従業員規模別

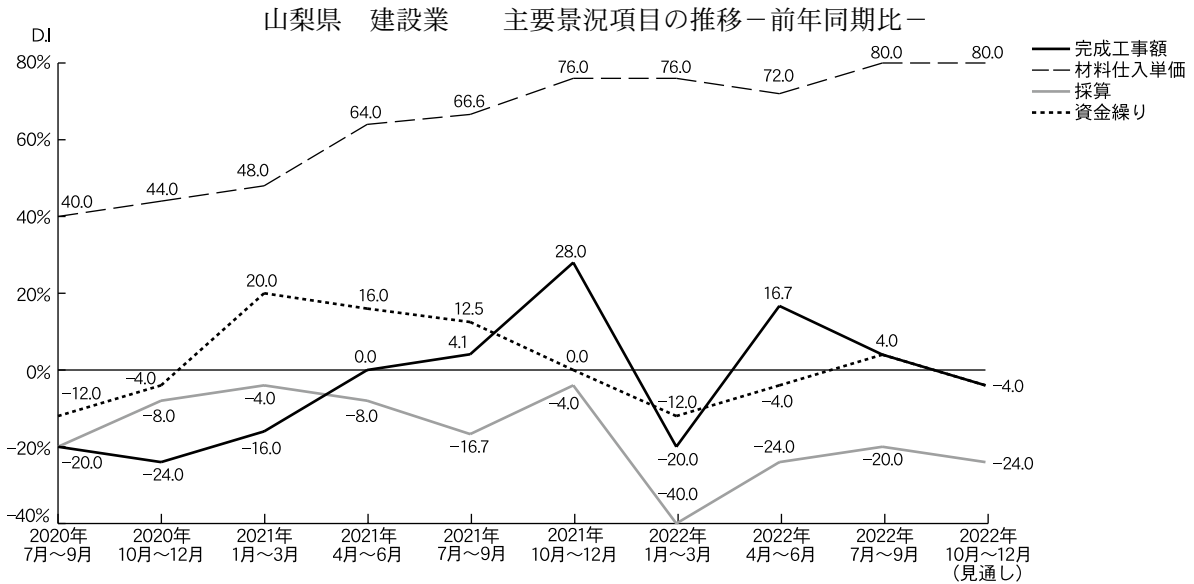
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	18	48.7	15	40.6
3人～5人以下	9	24.3	7	18.9
6人～10人以下	7	18.9	11	29.7
11人～20人以下	3	8.1	4	10.8
合計	37	100.0	37	100.0

3. 建設業の動向

(1) 景況概観

完成工事額D Iは、今期4.0と前期比で12.7ポイント悪化し、来期はさらに▲4.0に悪化の見通しである。材料仕入単価D Iは、今期80.0と前期比で8.0ポイントの上昇（悪化）、来期は80.0で変化なしの見通しである。採算D Iは、今期▲20.0と前期比4.0ポイント改善したが、来期は▲24.0へと悪化の見通し。資金繰りD Iは、今期4.0と前期比8.0ポイント改善したが、来期は▲4.0へと悪化の見通しである。

今期は完成工事額D Iと材料仕入単価D Iが悪化し、採算D Iと資金繰りD Iが改善を示した。来期は材料仕入単価D Iが変化なしの見通しで、それ以外のD Iは悪化の見通しである。



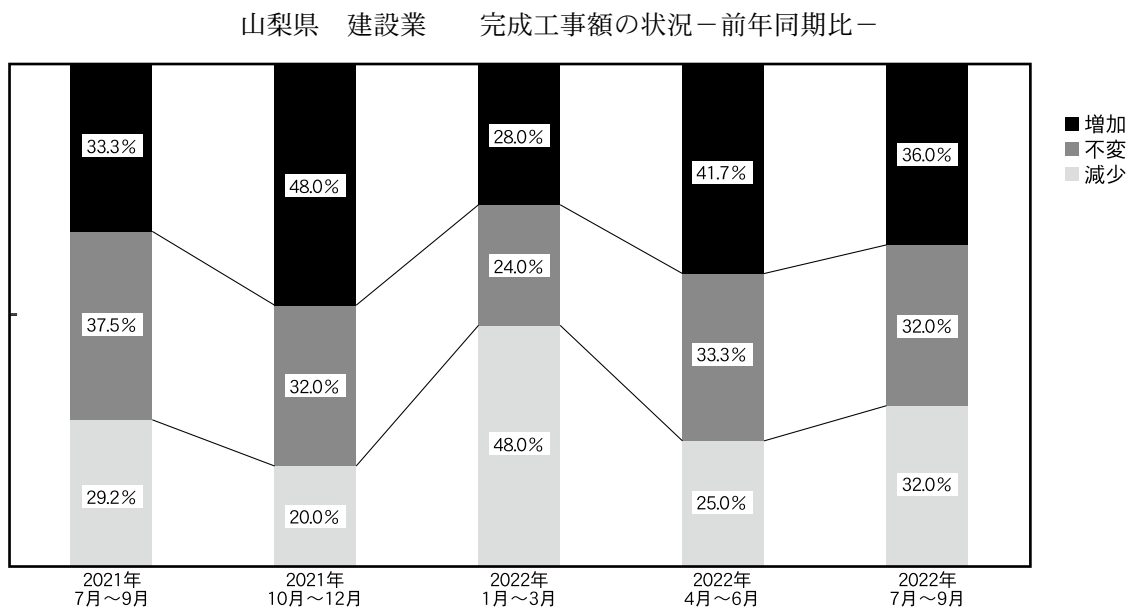
(2) 主な項目で見る業況

① 完成工事額（完成工事額D Iの内容（回答企業数25社（前回24社）））

「増加」と答えた企業の割合は、36.0%（9社）と減少（前期比▲1社）している。

「不変」は32.0%（8社）と減少（企業数は変化なし）、

「減少」は32.0%（8社）と増加（前期比+2社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数25社））

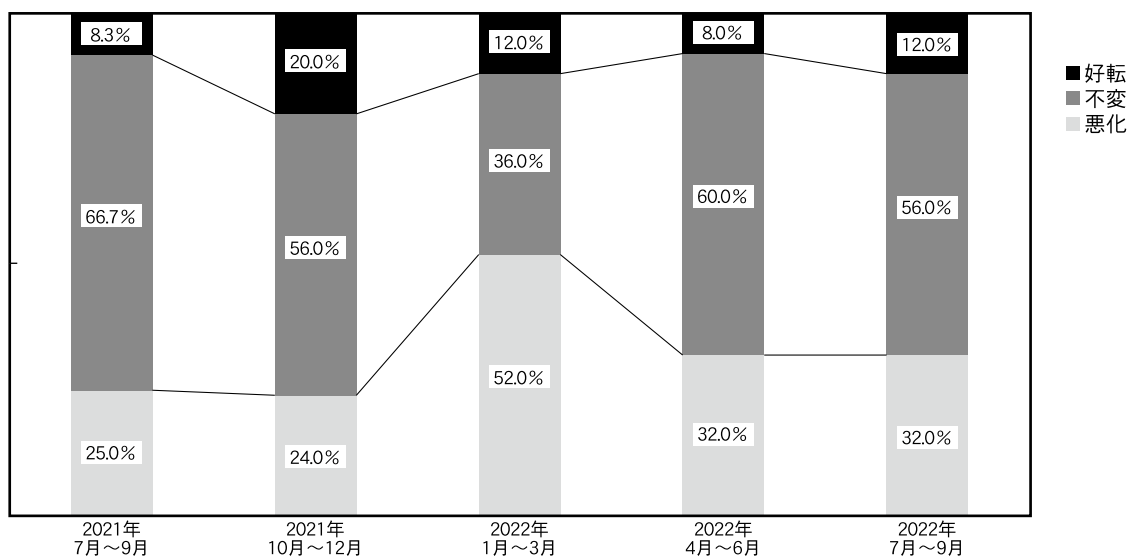
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、12.0%（3社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は56.0%（14社）と減少（前期比▲1社）、

「悪化」は32.0%（8社）と変化なし。

山梨県 建設業 採算の状況－前年同期比－

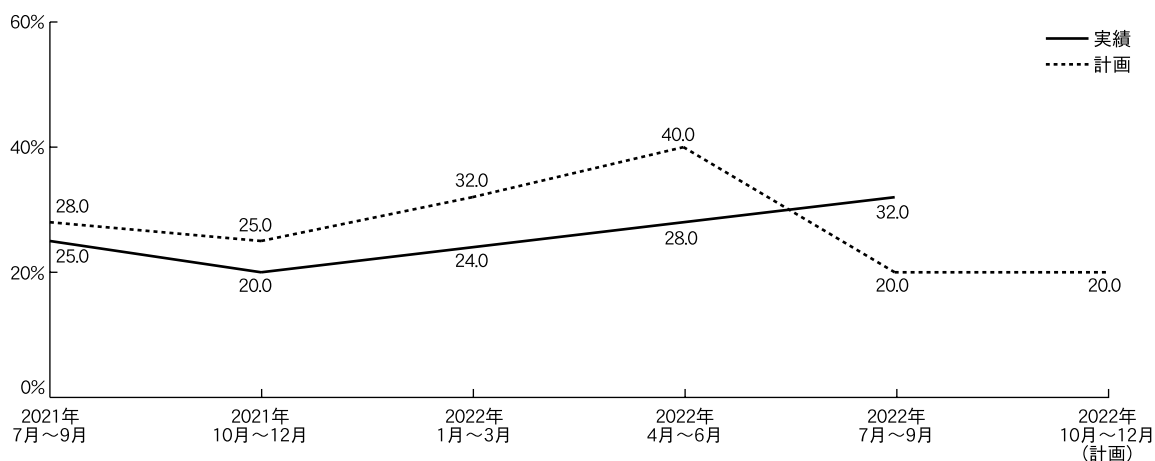


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数25社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は32.0%（8社）であった。その設備投資の内容は、「車両・運搬具」が4件、「建設機械」が2件、「OA機器」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、20.0%（5社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「建設機械」「車両・運搬具」が3件ずつ、「土地」「建物」「OA機器」が1件ずつになる。

山梨県 建設業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数25社）

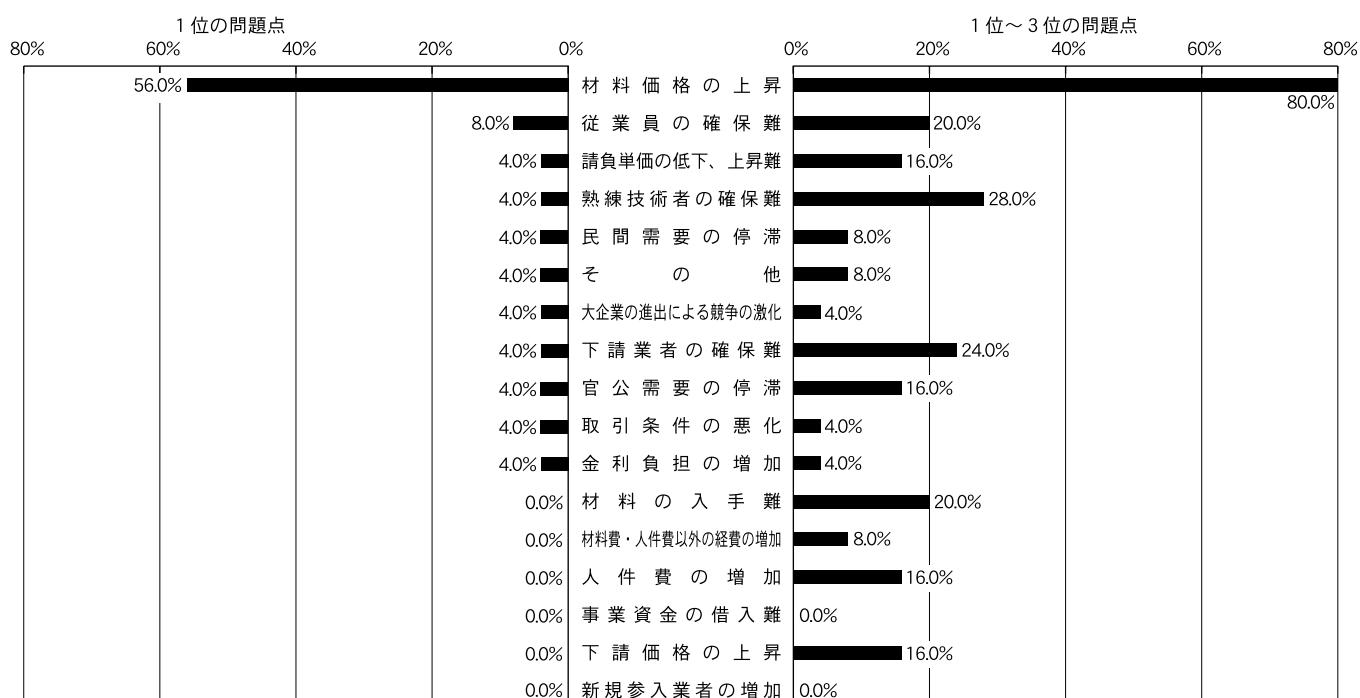
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

前回調査に引き続き「材料価格の上昇」が抜きん出て挙げられており56.0%（14社）であった。それ以外の問題点は2社ないし1社が挙げているに過ぎない。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらも「材料価格の上昇」が抜きん出て挙げられており80.0%（20社）であった。2番目に多かったのは「熟練技術者の確保難」の28.0%（7社）であった。

山梨県 建設業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
総合工事業	19	76.0
職別工事業	3	12.0
設備工事業	3	12.0
合計	25	100.0

従業員規模別

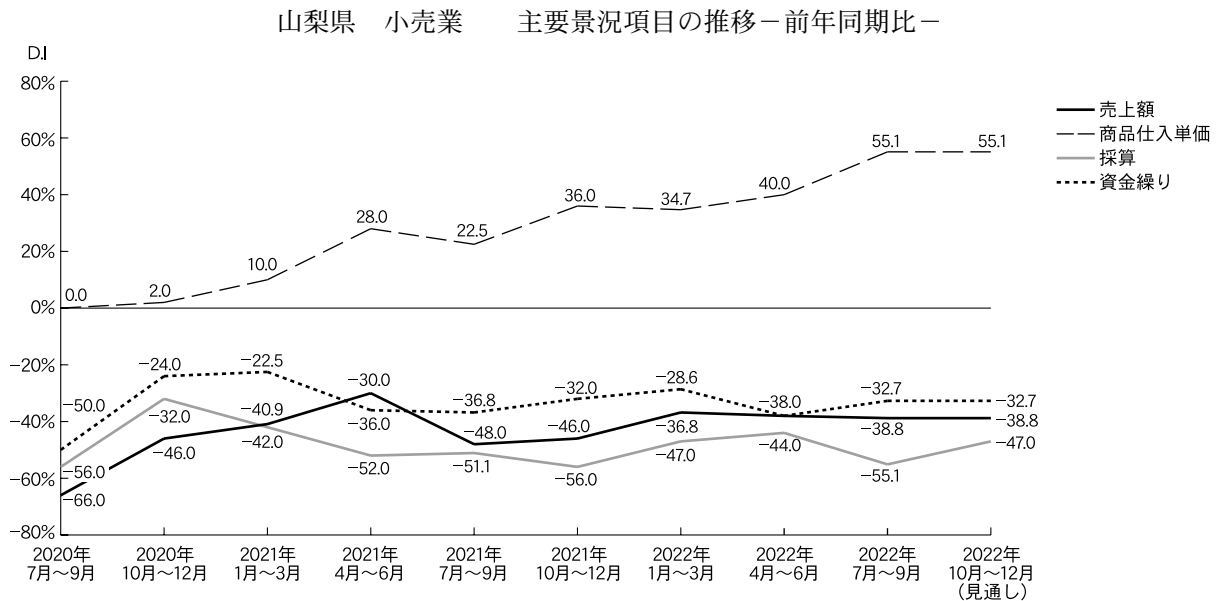
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い			
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	9	36.0	8	32.0
3人～5人以下	5	20.0	6	24.0
6人～10人以下	5	20.0	5	20.0
11人～20人以下	5	20.0	5	20.0
21人～50人以下	1	4.0	1	4.0
合計	25	100.0	25	100.0

4. 小売業の動向

(1) 景況概観

売上額D Iは、今期▲38.8と前期比で0.8ポイント僅かに悪化し、来期も▲38.8で変化なしの見通しである。商品仕入単価D Iも、今期55.1と前期比で15.1ポイント上昇（悪化）し、来期も55.1と変化なしの見通し。採算D Iは、今期▲55.1と前期比で11.1ポイント悪化した。資金繰りD Iは、今期▲32.7と前期比で5.3ポイント改善し、来期も▲32.7で変化なしの見通しである。

今期は資金繰りD Iのみが改善、ほか全てのD Iが悪化している。来期は採算D Iのみが改善見通しで、他のD Iは今期と変化なしの見通しである。



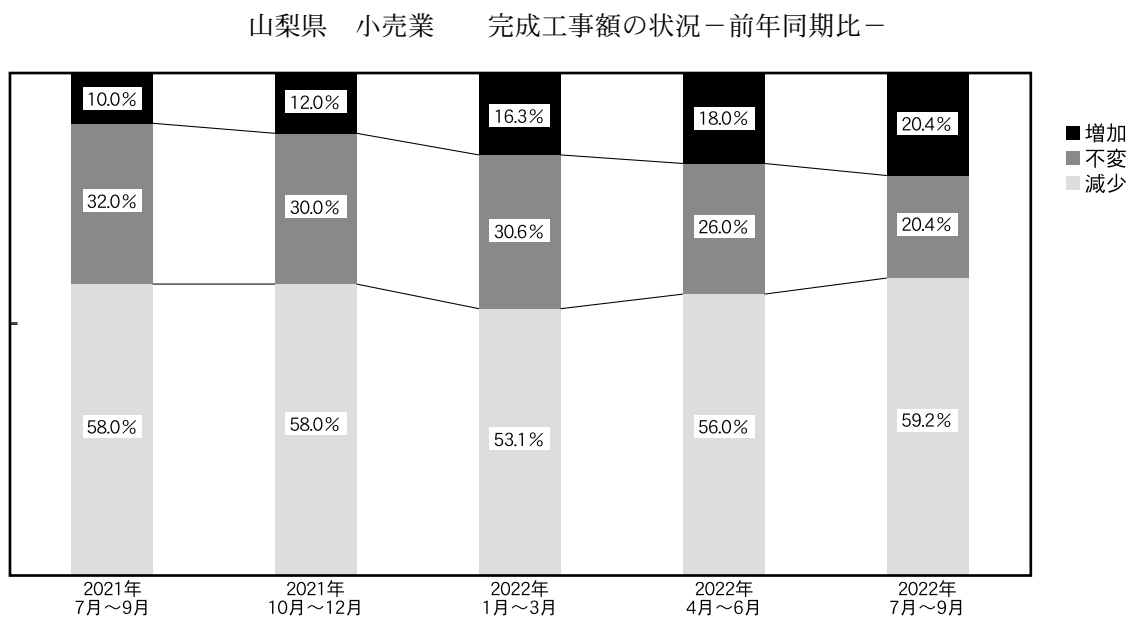
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数49社（前回50社）））

「増加」と答えた企業の割合は、20.4%（10社）と増加（前期比+1社）している。

「不変」は20.4%（10社）と減少（前期比▲3社）、

「減少」は59.2%（29社）と増加（前期比+1社）している。



② 採算（採算D I の内容（回答企業数49社（前回50社））

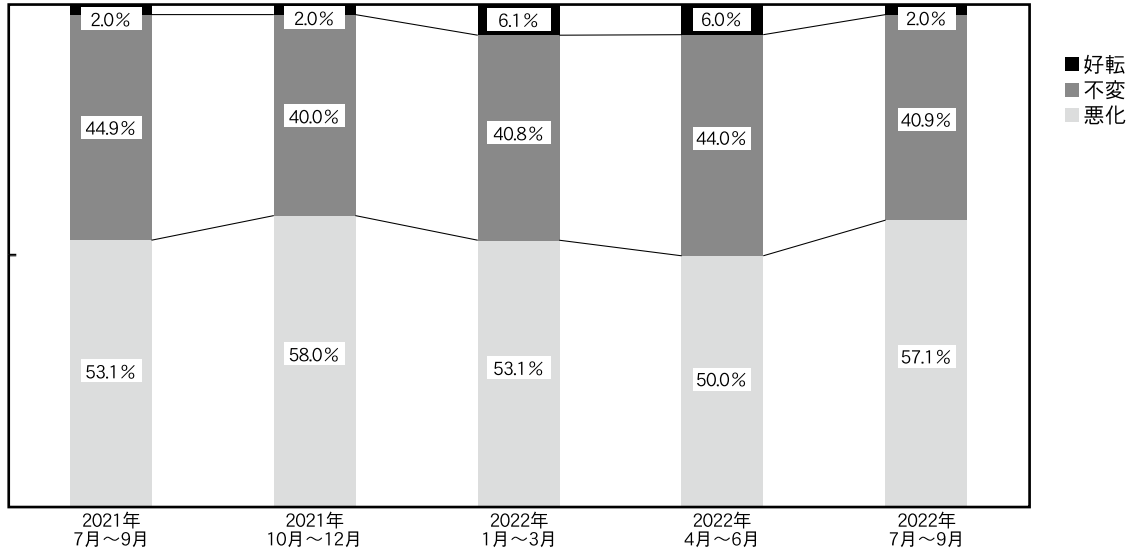
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、2.0%（1社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は40.9%（20社）と減少（前期比▲2社）、

「悪化」は57.1%（28社）と増加（前期比+3社）している。

山梨県 小売業 採算の状況－前年同期比－

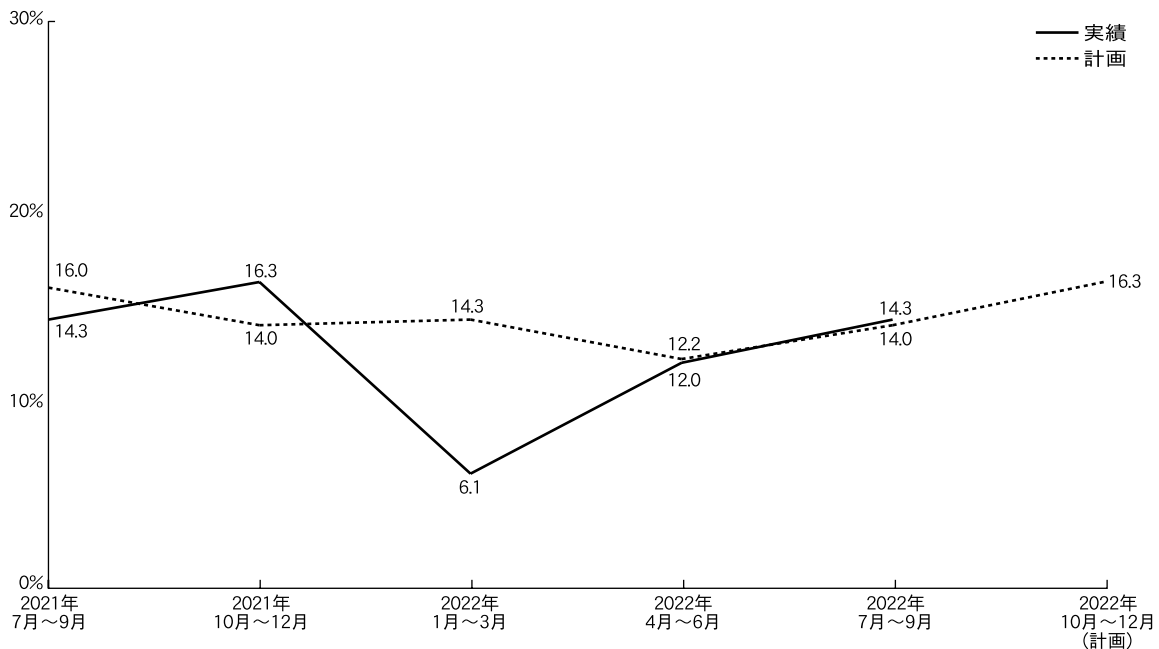


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数49社））

今期において、設備投資を行った企業の割合は14.3%（7社）であった。その設備投資の内容は、「販売設備」「付帯施設」「OA機器」「その他」が2件ずつであった。

来期の計画については、16.3%（8社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「付帯施設」「その他」が3件ずつ、「店舗」が2件、「販売設備」「車両・運搬具」が1件ずつになる。

山梨県 小売業 設備投資の状況



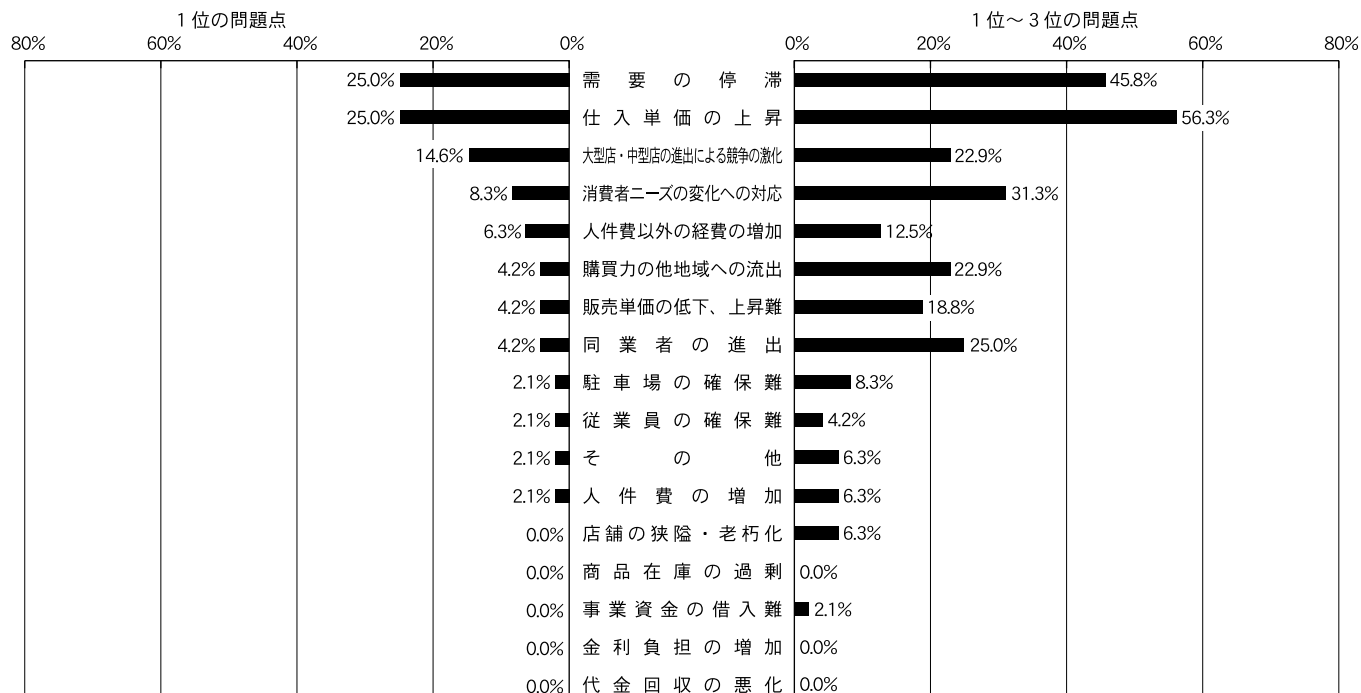
④ 経営上の問題点（回答企業数48社）

まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは「需要の停滞」と「仕入単価の上昇」とが同数の25.0%（12社）であった。次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

1番目に多かったのは、「仕入単価の上昇」の56.3%（27社）であり、2番目は「需要の停滞」の45.8%（22社）であった。

山梨県 小売業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
各種商品小売業	0	0.0
織物・衣服・身の回り品小売業	9	18.0
飲食物品小売業	18	36.0
自動車・自転車小売業	2	4.0
家具・建具・じゅう器小売業	4	8.0
その他小売業	17	34.0
合計	50	100.0

従業員規模別

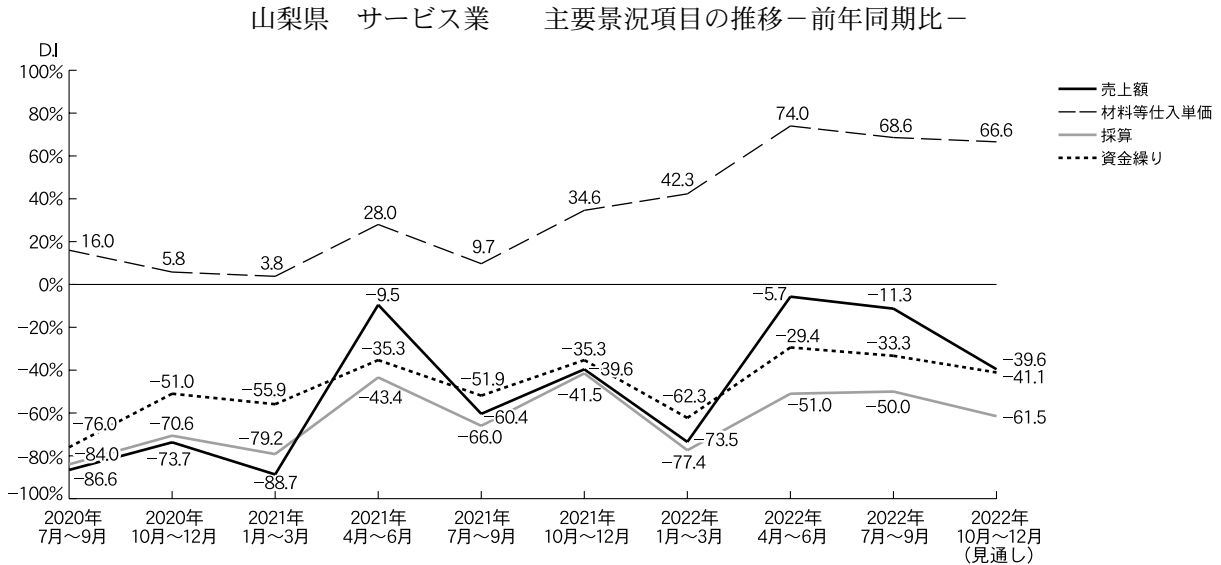
従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	92.0	38	76.0
3人～5人以下	4	8.0	12	24.0
6人～10人以下	0	0.0	0	0.0
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	50	100.0	50	100.0

5. サービス業の動向

(1) 景況概観

前期大幅改善した売上額D Iは、今期▲11.3と前期比で5.6ポイントの悪化、来期はさらに▲39.6に悪化の見通しである。材料等仕入単価D Iは、今期68.6と前期比で5.4ポイント下降（改善）し、来期も66.6へと僅かに下降（改善）の見通しである。採算D Iは、今期▲50.0と前期比で僅か1.0ポイントの改善、来期は▲61.5に悪化の見通しである。資金繰りD Iは、今期▲33.3と前期比で3.9ポイント悪化し、来期は▲41.1とさらに悪化の見通しである。

今期は前期大幅改善を示した売上額D I、及び採算、資金繰りの各D Iが鈍化ないし悪化。来期も同各D Iは悪化の見通しである。3期続けて悪化していた材料等仕入単価D Iは、今期は若干改善、来期も僅かながら改善の見通しである。



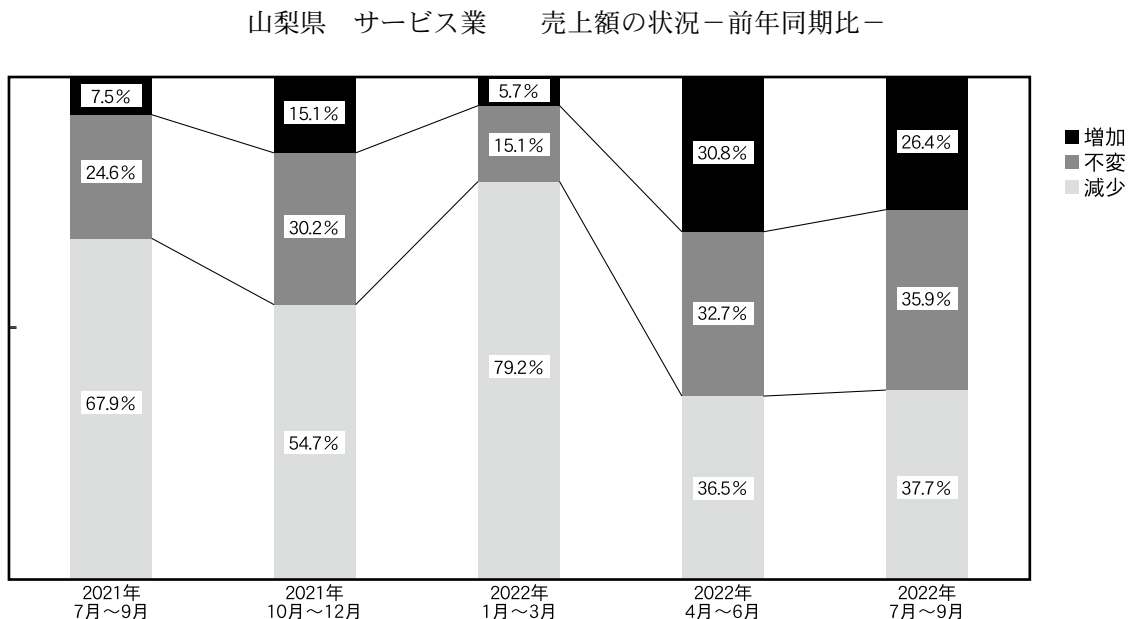
(2) 主な項目でみる業況

① 売上額（売上額D Iの内容（回答企業数53社（前回52社）））

「増加」と答えた企業の割合は、26.4%（14社）と減少（前期比▲2社）している。

「不変」は35.9%（19社）と増加（前期比+2社）、

「減少」は37.7%（20社）と増加（前期比+1社）している。



② 採算（採算D Iの内容（回答企業数52社（前回51社））

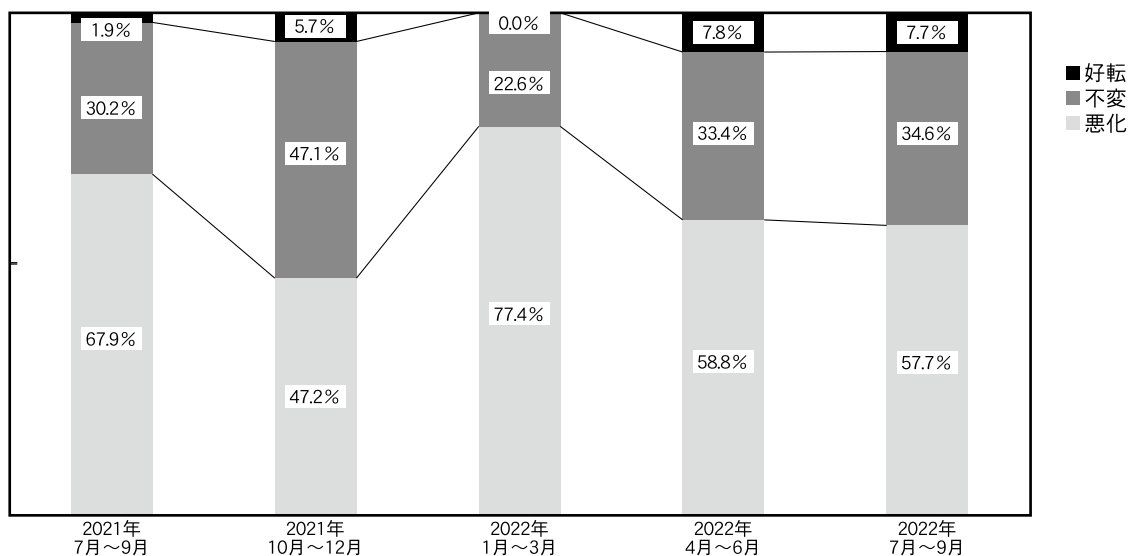
※ 本調査では、経常利益を「採算」として尋ねている。

「好転」と答えた企業の割合は、7.7%（4社）と減少（企業数は変化なし）している。

「不変」は34.6%（18社）と増加（前期比+1社）、

「悪化」は57.7%（30社）と減少（企業数は変化なし）している。

山梨県 サービス業 採算の状況－前年同期比－

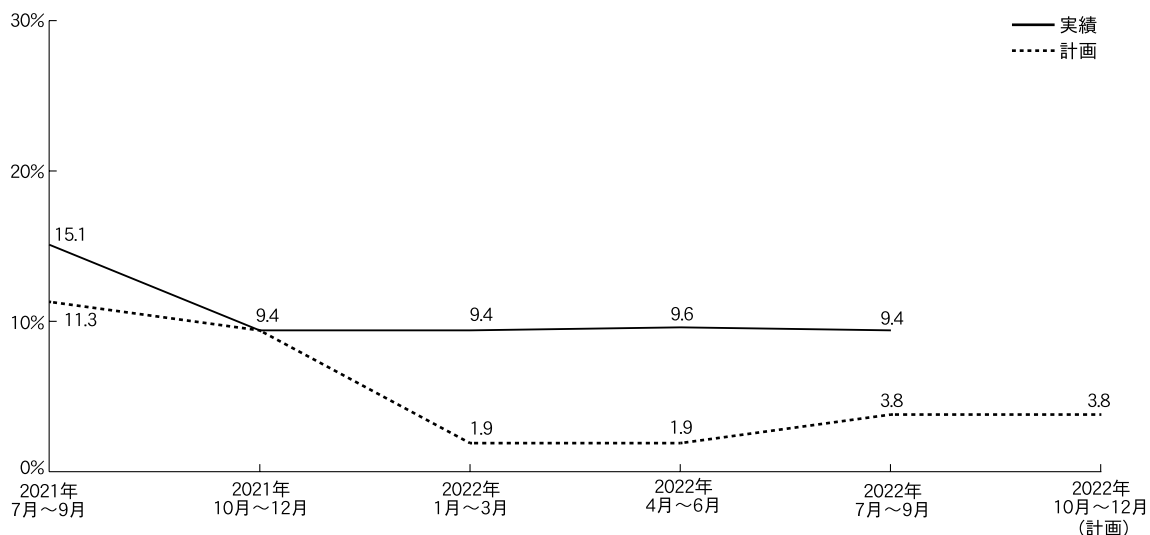


③ 設備投資（直近1年間における設備投資の状況（回答企業数53社）

今期において、設備投資を行った企業の割合は9.4%（5社）であった。その設備投資の内容は、「サービス」が2件、「付帯施設」「OA機器」「その他」が1件ずつであった。

来期の計画については、3.8%（2社）の企業が予定している。その設備投資の内容は、「付帯施設」が2件「サービス」が1件である。

山梨県 サービス業 設備投資の状況



④ 経営上の問題点（回答企業数47社）

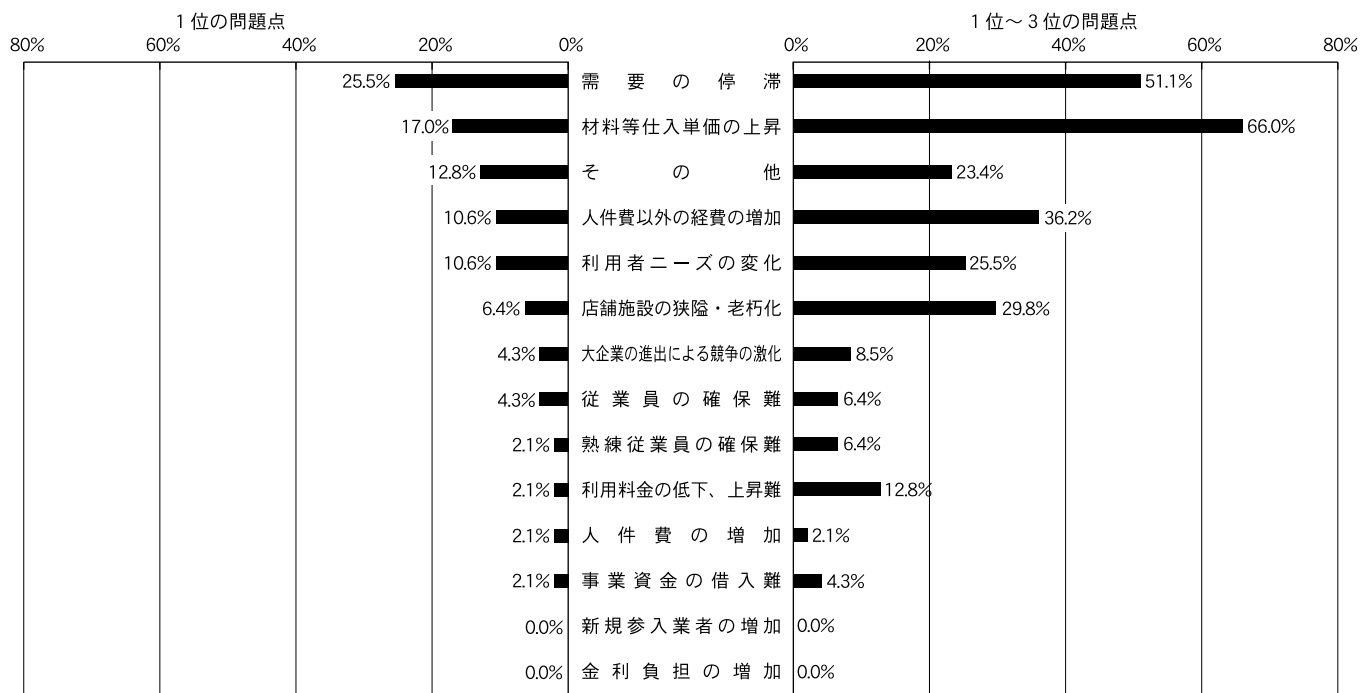
まず、経営上の問題点として、「1位」に挙げられたものからみていく。

1番目に多かったのは、「需要の停滞」の25.5%（12社）であり、2番目は「材料等仕入単価の上昇」の17.0%（8社）であった。

次に、「1位～3位」に挙げられたものをみる。

こちらは1番目に多かったのは、「材料等仕入単価の上昇」の66.0%（31社）であり、2番目は「需要の停滞」の51.1%（24社）であった。

山梨県 サービス業 経営上の問題点



⑤ 回答企業の内訳

業種別

業種	企業数	構成比(%)
一般飲食店（一般・遊興）	19	35.8
宿泊業	7	13.2
運送業	1	1.9
自動車整備業	4	7.6
洗濯・理美容業	19	35.8
その他のサービス業	3	5.7
合計	53	100.0

従業員規模別

従業員数	雇用形態		臨時等含む	
	常雇い	臨時等含む	常雇い	臨時等含む
	企業数(社)	構成比(%)	企業数(社)	構成比(%)
2人以下	46	86.8	40	75.5
3人～5人以下	7	13.2	12	22.6
6人～10人以下	0	0.0	1	1.9
11人～20人以下	0	0.0	0	0.0
合計	53	100.0	53	100.0